

一、開会の挨拶

司会者 安 世舟

『欧州のナショナリズム―過去・現在・未来―』というテーマで国際比較政治研究所の第五回（一九九五年度）シンポジウムを開催致します。今回、本研究所で今日のテーマとして欧州のナショナリズムを取り上げたのは次の二つの理由があります。一つは、本学の七〇周年記念事業として「二十一世紀における民族と国家」というテーマで全学的な共同プロジェクトが昨年から実施されており、本研究所もそれに参加しているからであります。本研究所の専任及び学外の研究員は各々の分担分について研究を続けておりますが、昨年の本研究所の第四回シンポジウムでは、さし当たりこのテーマの持つ問題点を明らかにする意味で、『どこへ行く民族と国家』という題で、ヨーロッパ地域以外の、とりわけ中東、アジア、アフリカの、民族と国家の問題についてシンポジウムを行いました。その成果は、本研究所の所報第四号に発表されております。この問題に関心をお持ちの方は、お帰りに研究所に立ち寄っていただければ、その所報を進呈させていただきます。

二つ目の理由は、今日は、昨年に引き続いて、「二十一世紀における民族と国家」の共同研究の一環として、昨年のシンポジウムで取り上げなかった、ヨーロッパにおける民族と国家の問題点を、ナショナリズムに焦点を当てて明らかにしたいと考えて、本日のテーマには「欧州のナショナリズム」を取り上げた次第です。

申すまでもなく、ナショナリズムは、フランス革命後、国民国家のイデオロギーとして発生しました。その後、ドイツやイタリアはこのイデオロギーによって、各々、民族統一国家を確立して行きました。こうして、ナショナリズムは、国家を持たない民族の解放ないしは独立を勝ち取る原理として国際政治の分野で機能し、第一次大戦後には、

それは、いわゆる一民族一国家という「民族自決権」という形で国際法の普遍的原則の一つとして認められるようになりしました。そして、それは、一九六〇年代まで、宗主国の支配下にあった諸民族の解放の思想として国際政治において大きな力を発揮致しました。

このように、ナショナリズムは、第二次大戦後、発展途上国における解放と独立維持のイデオロギーとして機能して来たのでありますが、七〇年代以降、それは、ヨーロッパ等において別の意味を持つようになりました。御承知の通り、七〇年代以降、経済と情報のグローバルイゼーションの進展と共に、ヨーロッパでは、例えばEUに見られるように、経済分野から始まって他の分野に広がる形で、各国はその主権の一部を放棄して、経済統合、さらに国家連合の形で統合化へと進んでおります。それと共に、従来の国民国家の原理であったナショナリズムは別の意味を持つようになりしました。もしEUが成功しますと、ナショナリズムは将来、キリスト教文化を持つヨーロッパ人の統合組織の自己主張の原理として、「欧州のナショナリズム」として、現れる可能性も持っております。他方、経済と情報の国際化の進展につれて、人口の国際間移動も加速化すると、ある地域に新しく流入した人々と土着の人々との間に、文化衝突が発生し、ナショナリズムは、ある民族ないしエスニック集団の文化的個性の自己主張の原理という形に変性し、こうした「ナショナリズム」の問題がドイツやフランスなどで発生しております。こうした傾向は、九〇年代に入って強まって来ております。

こうした西ヨーロッパにおけるナショナリズムの変遷は、冷戦の崩壊後に東欧に起きているナショナリズムの復興現象とは性質を異にするものであることは言うまでもありません。

御承知の通り、ソ連の崩壊と共に、旧ソ連や東欧においてナショナリズムないしは民族自決権に基づいて分裂が始まりました。ユーゴスロバニアの場合は、一つの国家が三つにも四つにも分かれて、「民族浄化」という内線を戦っ

ております。第二次大戦後、資本主義と共産主義というイデオロギーの対立が全面に出て、大きな重石がかけられて抑えられていたナショナリズムが、冷戦の崩壊によって一挙にその重石が取られるや否や、勢いよく噴出したという感じを受けます。

本研究所では、こうした東欧における古典的意味でのナショナリズムの復興と、西欧における経済と情報の国際化に伴って変化したナショナリズムの問題を取り上げて、その問題点を明らかにするという意味で、この問題について、わが国で各々の分野での第一人者であられる二人の先生方をお招きして、基調講演を賜ることになりました。

前置きが少し長くなりましたが、早速二人の先生方を簡単に御紹介致します。

最初に「EUとナショナリズム」というテーマで基調講演をしていただくのは一橋大学社会学部教授の梶田孝道先生です。

梶田先生は、ヨーロッパの民族と文化の問題を全体的に、かつ学際的に取り上げて研究する国際社会学という、全く新しい学問分野を開拓なされて、様々な素晴らしい業績を発表されております。今日、図書館に行って調べましたところ、先生には著書が三〇数冊ありまして、本学に入っているのは一八点です。その中で、本日のテーマとかかわりの深いもので、入手し易いものとして、『統合と分裂のヨーロッパ』（岩波新書）というものがございますので、興味をお持ちの方は、講演の後、ぜひ御覧になって、今日のテーマについてのご理解を深めていただきたいと思います。

まず、梶田先生にご講演を賜った後に、東欧あるいは旧ソ連のナショナリズムについては、元国際政治学会理事長で、東欧の政治史につきましましては、日本の第一人者でいらっしゃる、神戸大学法学部教授の木戸先生にお話をしていたく事になっております。木戸先生についても今日、図書館で調べましたら、膨大な著作があります。とりわけ、山川出版社で刊行された『バルカン現代史』という歴史書のみならず、国際政治についても、先生が書かれた、

あるいは編著者になられた本が十数冊ございます。ですから、東欧について興味を持たれる方は同じように図書館に行かれました、木戸先生の本を直接入手して勉強していただきたいと思えます。

木戸先生は、今日、御多忙のところ、わざわざ神戸からおいでいただけますが、七時の飛行機でどうしてもお帰りにならないといけないということです。四時半頃、当会場からご退場なされる予定です。あらかじめ御了承賜りたいと思えます。したがって、講演を賜った後に、もし何か先生に質問したいことがございましたら、コーヒブレークの後に、紙を回しますので、記入して出していただければ幸いです。私がパネリストのお話が終わる前に、適当な時間を見計らって、木戸先生からお話をしていただく機会を作りたいと思えます。

では、早速、梶田孝道先生に、「EUとナショナルリズム」という題で基調講演を賜りたいと思えます。梶田先生、よろしくお願ひ致します。